

98
NO.50

RECYCLE
Design

月刊

リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

リサイクルデザインは、横浜市内の資源回収業者の組合(135業者が加盟)による、市民と組合員にリサイクルの情報・回収の実情を伝えるための情報誌です



リサイクルデザインの発行が始まってから、四年経ちました。あつという間のことで、ふと気づけば五〇号です。これまでまったく後ろを振り向かず走ってきたが、五〇号をきっかけに、リサイクルデザインの発行母体、横浜市資源リサイクル協同組合の中野さん(理事長です)と一緒に、ちょっと振り返りながら、リサイクルデザインのこれからについても考えてみました。

「“リサイクルの仕組みを
デザインしたい”
そんな思いではじめて
4年経ちました」

——気づいたら、もう五〇号ですね。
中野 始めたからには、とにかく続けたかった。回収業界の我々自身から発信を続けていくことができれば、組合員の自信になると思っていたし。
当初は三〇〇部から始めたのが、今では実数で一万部になりました。ここまで部数が伸びるとは、想像していませんでしたね。

RD
リサイクルデザイン
50号記念



——資源物の価格がどんどん下がっています。雑誌はすでに逆有償になり、自治会や子ども会の中には、回収をやめたところもあるほどです。一方で環境問題のためにリサイクルを、と言われるながら、もう一方では手間がかかるのにお金にならないからと集団回収をやる動きがある。建前と本音の違いをまざまざと見る思いです。

中野 かつて、リサイクルは省資源・省エネルギーのために行われるものでした。その段階の回収システムは「お値段」のついた資源物を、お金で売買するものでした。つまり資源物は値段をつけることができる商品で、そのやりとりは商売として成立していたのです。

ところが今、リサイクルは環境問題の一部としてとらえられるようになっていきます。そこでの資源物は、商品としては扱われません。「お値段」も、つかなくなりました。ということは商売として成立しない。商売として成り立たないことを続けることはどうということなのか。それをリサイクルデザインを通じてみなさんが考えてくださるようになれば、全体の流れが変わってくるんじゃないかと期待しています。

この資源リサイクル協同組合を作った目的の一つに、個人による商売としては成立しにくくなった事業に団体で取り組んで、何とか運営していくということがあります。

——そうした組合が、なぜこのような情報誌を作ったのでしょうか。

中野 従来の資源関係の組合では、ま

ず「お値段」ありきでした。業者間で過当競争に陥らないように、不当な販売にならないように、というようなことを年中話し合いながら、親しくなって内部でうまくやっていきましようという形で組合が運営されるのが当たり前でした。

でも今は値段がない。それなのに、みんなが集まって酒飲んで、「どうしましようか」と言っても何も起きない。我々の生活が成り立つだけの収益が上がる仕組みにしていくなめには、皆さんにこの業界のことを理解していただいて、我々のしていることを社会的にきっちり評価をしていただける材料を、こちらから出していくことが必要です。

ところが、とにかく表現することがヘタな業界で、紙を集めることはするけれど、紙に情報載せて配ることはしてなかった。それを形にしたのがリサイクルデザインです。こういう情報誌を、我々回収業界から発信することは、とても意味あることだと思っています。

——リサイクルデザインは回収業界から発信しているにもかかわらず、市民・行政・組合員の誰もが語るこ

電子マニフェスト 運用はいかに？

今年の十二月より、産業廃棄物の処理に関してマニフェストが義務化されます。マニフェストとは、「廃棄物の発生から最終処分まで、誰が、いつ、何の廃棄物を、どのように処理したかという一連の流れを把握するための管理伝票」で、その義務化は、後を絶たない不法投棄対策の一環として行われるものです。

世の中、規制緩和ばかりですが、こと廃棄物業界はマニフェスト義務化以外にも、法律の規制は厳しさを増す一方となっています。マニフェストそのものは今までも存在し、適用されてきていますが、今回の義務化に伴って創設されるのが、「電子マニフェスト制度」です。この制度は廃棄物排出事業者が処理を委託する場合に、従来の複写式の紙伝票か、電話回線を使って情報を集約・運用する電子マニフェストのどちら

を使うか選択し、行政が廃棄物処理の監視をしやすくする制度です。

運営主体は厚生省から指定された財団法人日本産業廃棄物処理振興センターで、十二月の本格実施を前に、この九月から試行運営に入りました。

電子マニフェスト制度は、伝票交付の簡素化をはかり、廃棄物処理の管理・都道府県への実績報告の代行を可能にし、排出事業者と監督行政の双方が廃棄物の流れを把握することを可能にするシステムです。事業者がシステムに参加するのは有料で、排出事業者は加入料五〇〇〇円・年額基本料金二五〇〇円・使用料一〇円、収集運搬業者と処分業者の場合は加入料五〇〇〇円・年額基本料金一二五〇〇円・使用料無料、いずれも一分十円の通信料は加入者の負担となります。



中野 ふつう組合が会報を作る場合、内部の会員に向けて作るのが圧倒的に多いでしょう。でもリサイクルデザインは、単なる組合の会報じゃない。組合員の抱えている課題やそれぞれの持っている力を外部に発信して、市民の皆さんが抱えている問題とすり合わせていく形をとった。市民と組合員、時には行政も、同じサイドに立って問題を考えることができる場にしたかったんです。そんなことをしても、資源物の値段が上がるわけじゃありません。でも、事業をするための環境は、理解を得ることとわずかずつでもよくなっていくはずなんです。

そもそも「リサイクルデザイン」というタイトルには、「リサイクルの仕組みをデザインしたい」という思いがこもっているんです。まずは事業環境を整えて、それから徐々に「リ

サイクルのデザイン」を実行していきたいと思っています。

——いつも気になっていたんですが、リサイクルデザインの表紙に描かれた赤と青のマークには、どんな意味があるのでしょうか。

中野 マークの赤は動脈、青は静脈を表しています。資源回収は静脈産業です。リサイクルするためには、この静脈が欠かせない。人間も、静脈が集めたものを再生して、動脈に送るという循環の繰り返しによって生きています。資源だって本来はそうあるべきです。

ところが、このマークの動脈には詰まりがあるし、静脈はでこぼこして流れが悪いから、通りをよくしたい。動脈・静脈ともに円形になるのが理想の形なんだよ、ということを示表現しています。

かつての日本の資源回収システムは、ごく自然に動脈と静脈のバランスがとれていました。自分たちの社会にもしかったリサイクルシステムがあったということは、もっと見直されてもいいし、自信を持ってもいいのではないかと思います。

(文責/よしのたかこ)

電子マニフェスト制度が運用されると、不法投棄や処理が規制され、環境に関する倫理の問題が解決されるかのようです。もちろん、制度としては必要であるし、反論を唱える必要もありません。しかし、「不法投棄がなぜ発生するのか」ということを考えると、いつも感じるのは、廃棄物やリサイクル処理を施すために必要なコストが、払うべきところから払われていないのではないかとということです。処理するための充分な費用がないのに、どうやって適正処理ができるのでしょうか。

ではそのコストは誰が払うべきものなのでしょう。家電リサイクル法が可決され二〇〇一年から実施されますが、コスト負担については未だどうなるのか不透明です。新聞で不法投棄が報道されるときには、収集運搬業者の名前しか出てきません。処理を依頼した者への責任追求や処分はほとんど皆無です。「所詮捨てるゴミ」に金を使うよりは、きれいな洋服・便利な日用品・グルメな食事に金を使いたいと思うのは当然のこと。それなら、電気・ガス・水道・税金（不平等はありますが）などのように、ゴミ処理にかかる費用も公共料金的な位置づけにすれば

いいのではないのでしょうか？

法制度が厳しくなれば、処理料金が高騰し、リサイクルしようという動きが促される、そのこと自体は良いことです。抜け道のある法律も多いけれど、廃棄物処理・リサイクルを仕事として実践する我々にとって、変革するための大きなきっかけと考えることもできます。

電子マニフェストは、その他の情報管理にも活用することができるところですから、これによって「情報目」管理」の基本を作ることができないのではないのでしょうか。廃棄物処理に関する法律は、急ピッチで整備・改善されています。処理技術の進歩もすばらしい。乗り遅れないように、タコ足のように情報をキャッチしていくことが必要不可欠です。

ただ、本来は資源物として販売できるものについて、廃棄物とみなして伝票を発行しろと言われてもねえ。ゴミとして出す人にとってはどちらでも同じことかもしれないませんが、資源として生かせるものを生かさず、廃棄物扱いするのは問題だし、業者にとってみれば管理コストがかかってしまうものなのだと思います。知っておいていただけたらと思います。(武松)

環境エネルギー館に行ってみよう

—東京ガス「環境エネルギー館」
(横浜市鶴見区)

横浜市鶴見区の埋立地に、東京ガスの企業PR館「環境エネルギー館」が11月5日オープンする。8月末に完成間近の同館を訪問し、同館で上映されるビデオ撮りに参加した。

●体験しながら学べる場に

鶴見の焼却工場の近くに、ちょっと変わった形の建造物が建っている。ここは、東京ガスが建設中の環境教育施設「環境エネルギー館」だ。一応、東京ガスのPR用に作られてはいるが、企業色を極力出さずに、横浜で環境教育に取り組む学校教員などの意見を採り入れながら企画を立てている。

中はまだ内装の途中で、ほとんど見ることはできなかったが、パンフレットによれば省エネやゴミ、排泄物や水の循環などのテーマごとのブースがあって、子供たちが体験しながら学べる工夫が凝らしてある。屋上はビオトープになっていて、自然体験プログラムも実施される。建物はなかなかバブルだが、内容は市民や教員と一緒に企画を練ったということで、日本ではちょっと珍しい施設のようだ。

自然観察のレンジャーや環境教育の指導者としての講習を受講したことがある若者が「インタープリター」すなわち子供たちと展示物、あるいは子供たちと自然との橋渡し役となったり、ワークショップを通して環境教育を考える場づくりをしてくれる。

●地域の市民力を生かす

この日、筆者は同館の「地球大好き放送局」で上映される環境教育ビデオにちよつとだけ写るために、ここを訪問した。ビデオでは、主にヨーロッパなどの環境への取り組みと、横浜市内での活動する市民団体として子供たちにベランダコンポストのやり方を指導しているところを撮ってもらった。

10人ほどの小学6年生の子供たちに、ベランダでできるコンポストの容器を作ってもらい、実際に生ゴミを入れたり土を入れたり、なかなか楽しんでもらえたようだった。

このコンポストは、同館のビオトープで常設し、できた堆肥は実際に使ってもらえるので、屋上に行けば目にすることができるだろう。また、このコンポストづくりが同館で行われるワークショップのプログラムとして加えてもらえるかもしれないということだったので、関心のある方は問合わせしてみよう。



「マンションに住んでいる人」「はい」

バブルの時期に建設された行政の環境教育施設はいくつか見てきたが、企業がこれだけの施設を作り、しかも企画に市民が参加しているというのは、かなり画期的なことだ。これから地域の市民の力をどう取り入れ、どのように魅力的な施設にしていけるかが、多くの子供たちに足を運んでもらえるかどうかの鍵となるだろう。

- 開館予定 平成10年11月5日
- 開館時間 9時30分～16時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
- 入館料 無料
- 交通 JR鶴見駅東口・京浜急行京急鶴見駅7番乗り場より川崎鶴見臨港バス08系統「ふれっゆ」行で約15分「東京ガス前」で下車
- 問い合わせ 045・505・5700

たかはし・ゆき
横浜・ゴミを考える連絡会代表
「環境教育の現場から」は隔月連載です

●コピー用紙 (新聞古紙100%の再生紙)

平成10年9月現在

サイズ	入数	規格	1・2ケース	3・4ケース	5～9ケース
A4	2500枚	白 (白色度70%)	2,080円	1,980円	1,910円
		ピンク・イエロー・グリーン	3,660円	3,480円	3,120円
B4	2500枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,160円	2,780円
		ピンク・イエロー・グリーン サーモン・パープル・ブルー	5,000円	4,800円	4,680円
B5	5000枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,140円	2,760円
A3	1500枚	白 (白色度70%)	2,570円	2,540円	2,230円

●コンピュータ用紙

入数	規格	5～9ケース
2000枚	白 (白色度60%)	2,900円

ご注文は

横浜市資源リサイクル事業協同組合

TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

一般家庭で使われているスーパーの手さげポリ袋は年平均約四〇〇枚、我が家の使用数が年四〇〇〜五〇枚。以前、スーパーのポリ袋を買物の都度もらう人に、その使い途を聞くテレビ番組がありました。ほとんどのご家庭でゴミ捨てに使っているという答えでした。つまりゴミの捨て方次第でスーパーのポリ袋使用は減らせる、ということになるわけです。

▼台所などにハサミの常備をよく切れるハサミさえ身辺にあれば、食材、新聞、その他いろいろなものが入れられてくるビニール袋はきれいに開封できるので、ほとんどが再利用できます。これをストックしておき、台所ゴミなどを詰め、輪ゴムやビニール製とじヒモ（食パンなどのビニール袋を閉じる、芯に針金の入ったもの）で閉じればOK。問題はこの輪ゴムやビニール製とじヒモが不足してしまいがちなことです。

▼不用ストックキングを生かす
ストックキングの使い途は、ヘアキャップ（46号）や丈夫なヒモ（49号）だけではありません。ストックキングの脚部分からは、伸縮性のあるとじヒモがバンバン作れるので、これをビニール

地球をまもる家事と工作

第31回 スーパーの手さげポリ袋使用を減らすコツ

島 秀子

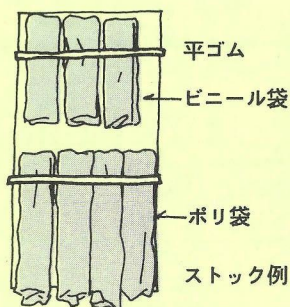
エコサイクル家事研究家



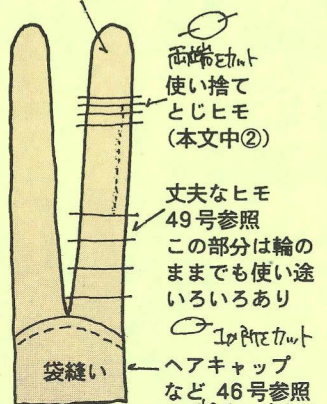
二（三センチ間隔にチョッキ切り取って輪状のものを作る。
②両端にハサミを入れてヒモ状にする（輪のままだと長すぎて使いにくい）。両手でギュッと伸ばせば、とじヒモに早変わり。

▼お買物には買物袋を不用ストックキングはまとめれば結構たくさんあるもの。ストックキングの部位ごとにそれぞれ使い途があるので、是非まとめ作業を！そして、「お買物には買物袋を！」これを常識にしたものです。

*1 収納ワゴンなどの壁面に平ゴムを何本か取り付け、このゴムに縦にたたんだビニール袋類をはさんでおくと、場所を取らずに出し入れが楽



掃除／洗濯機
カス取り用など



不用ストックキングの
使い方

再生紙を使ってみませんか！

資源回収から生まれた再生紙です。

再生紙を使うことは、
ゴミ減量・森林保護を支え、省エネルギーで経済的。
地球環境を守るためにも、資源回収から生まれた再生紙を積極的に利用しましょう。

●リサイクルボーイ トイレットペーパー

サイズ	1ケースの入数	規格	10ケース以下	11ケース以上
シングル(芯なし)	(1ケース8パック/1パック6ロール) 48個	130m	1ケース3,360円	1ケース3,000円

*上記価格は、1回のご注文につき1ケースあたり(各種・各サイズ込み)の価格です。消費税が別途かかります。

*この他の再生紙につきましては、横浜市資源リサイクル事業協同組合(右記)までお問い合わせください。

*配送は、受注後2〜3日以内(土・日は除く)。送料は無料です。10ケース以上のご注文については、別途ご相談ください。

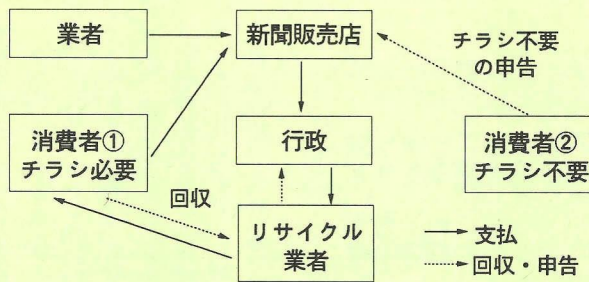


おたより & おしらせ

●新聞チラシゴミを減らすための一案

チラシゴミの中でも圧倒的に多いのが新聞チラシ、つまり新聞チラシを減らしリサイクルするシステムが整えば、チラシゴミは減らせるわけです。

新聞チラシは、チラシを出す業者・扱う新聞販売店・それを必要とする消費者、それぞれが何らかの恩恵を受けているわけです。でも、新聞チラシを必要としない家庭にとっては、これほど迷惑なものはありません。現在の新聞チラシの入れ方では、月七キロほどもある無用の新聞チラシを束ねてゴミに出したり回収したりする作業を、こうした家庭にも一方的に強要しているようなもの。



一方で新聞チラシの恩恵を受けている人がいる反面、一方で迷惑を受けて人々がいる。ならば当然新聞チラシによって恩恵を受けている人が、チラシの回収または廃棄処理費を負担すべきではないでしょうか。

すると、新聞チラシの回収、廃棄に関わる処理費用の流れを、次の図のようにすればしっくりいくと思うのですが、如何でしょうか？

横浜市保土ヶ谷区/だいちえこ

●魚柄仁之助講演会

「消費社会にモノ申す」

「ひと月九〇〇〇円の快適食生活」「台所リストラ術」

などの著書でおなじみの魚柄仁之助さんの講演会が開催されます。魚柄さん独自の視点に立った興味深いお話がたっぷりうかがえるはずです。

●日時/11月21日(土)

午後1時30分～3時30分

(開場1時)

●会場/緑公会堂(緑区総合庁舎内JR横浜線中山駅徒歩5分)

●参加費/一般1000円

(カンパ200円を含む)

地球の木会員800円

カンパはカンボジアの孤児院の自立支援のために贈ります。

●主催/グローバル市民基金

「地球の木」ほくぶ(私たちの生活と、南の国の貧困や環境破壊がいかに関係深いものかについて学習し、できることを探して行動に移しています)

●お問い合わせ/横浜市都筑区

富士見が丘2413 松村

045・941・9238

045・942・2176

この数字
ななんだ？

年間
1万1400トン



毎日のように使う教科書は、一般の書籍より強度が求められます。そのためこれまで、古紙配合の紙では教科書用紙としての条件を満たすことができませんでした。しかし古紙の余剰が社会問題となったことをきっかけに、教科書用紙に使える古紙の検討が重ねられ、一九九九年から教科書用紙は全面的に再生紙が使われることになりました。

一年間に使われる教科書用紙は約三万八〇〇〇トン。現在の教科書用紙の品質を維持するためには、古紙配合率三〇パーセントに抑えなくてはならないので、古紙使用量は一万四〇〇〇トンと、国内の古紙使用量から見ればごくわずか(〇・二五パーセント)です。また、品質を保つために、新聞や雑誌の古紙を使うことはできないなどの問題点は残されています。けれども、少しでも再生紙を使っていくことによって、子どもたちも再生紙を意識するようになっていくなら、それだけでも意義があるのではないのでしょうか。

リサイクルデザインは次の所にもおいてあります

マルエツ井土ヶ谷店/イトーヨーカ堂上永谷店/相鉄ローゼン大口店/神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店

はじめまして。 リサイクルデザイン スタッフです。

お陰様でリサイクルデザインも無事に五〇号を迎えることができました。そこで今号は趣向を変えて、スタッフの紹介をしたいと思います。

まずは、表向き編集長の宗村氏。いつもは陰の編集長に怯えながら仕事をしているら

にお目見えしました。これだけ経験を積み重ね、もうこの先何があっても大丈夫！この人が書く編集後記は笑えます。あとは、早くお嫁さん見つけてね（みなさん、よろしくお願いします）。

続いて、原稿書けばいいも

頑張りましょう。

三人目は、いつも「早く誰か入れようよ」が口グセとなりつつある武松氏。スタッフに加わることにになったのも、陰の編集長の強引な誘いに負けたためとか。本人はあのと

ってしまったとき、T氏の紹介で仲間入り。最初のころは結構原稿書いてましたが、ここ最近、そういえば久しくみてないなあ。今連載している「この塾子なあんだ」のコーナーも杉山氏が以前書いた原稿がヒントになって生まれたんですよ。近々何か書いてもらえそうな予感が。

高橋さんも環境教育という面で、リサイクルデザインスタッフには書けない真面目な文章で伝えてもらってます。イラストの伊藤さんも途中から手伝っていただき、読者から読みやすくなったといわれるようになりました。原稿書くのが遅いとイラスト書くのも遅くなるわけで、迷惑かけてます。

そして最後にライター兼編集・制作をお願いしている吉野さん。彼女のお陰でRDは八ページにすることができました。ほんの一言で何でもできちゃうスーパーウーマンです。頭が上がりません。

今後このメンバーで末永くやっていけたらと思っていますので、これからもどうぞよろしく願います。またリサイクルデザインに対するご意見・ご感想も随時募集しています。（ドナルド）



後列左から山岡・宗村・杉山・武松、前の女性が竹澤です

しい。結構原稿も書いてるので、みなさんおなじみ（名前を出したくないそうで、ペンネームばかりですけど）。前回のリサイクルデザインフォーラムではパネラーも初体験。昨年NTTタウン誌大賞で特別賞を頂いた時には、授章式に出席。その笑顔が全国

の書くのに、書き出すまでに非常に時間のかかる山岡氏。一時期「辞めちゃったの？」と思われるほど音沙汰ない時もあったけれど、最近見事に復活。編集会議などではいつも奇抜なアイデアでみんなをビビらせます。この調子で（定期的に原稿を書くということ）

よかったな」と絶対に思っているはず。しかし、これも運命なのです。武松氏が書いたダイオキシンの記事はかなり好評でした。これからも真面目で辛口原稿をお願いします。そして、このスタッフの中では一番最後に加わった杉山氏。編集スタッフが四人にな

は講師として全国規模で講演

されたり、本も出版されたり、忙しい方となりました。

ササキさんは五号からのおつきあいで、いろいろな方を紹介していただきましたし、リサイクルデザインのこと遠い九州から応援してくれています。

リサイクル標準価格表

平成10年9月現在

品名	買入価格*	業者の売値 9/17日経新聞より
新聞	1kg - 1円 **	1kg 2~3円
雑誌	1kg - 5~2円 **	1kg 0~5円
段ボール	1kg - 3円 **	1kg 2円
衣類くず	1kg - 3円 **	1kg 2~3円
アルミ缶	1kg 10~20円 ***	

* 集団回収には「買入価格」が適用されます

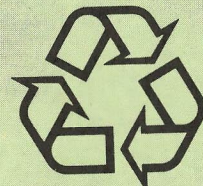
** 有償となります

*** スチール缶などと選別してある場合の価格です

★ この価格は500kg以上集団回収する団体のみに適用されます
また取引条件により、多少の変化があります★ 事業所から発生したものは、集団回収の対象になりません
事業所ごとに、業者と直接ご相談ください★ 集団回収以外の段ボールの回収には、1回3,000円以上の
手数料がかかります

★ 段ボールは必ず束ねて出してください

オフィス古紙 共同回収	アルミ缶 店頭回収	横浜橋通商店街 段ボール回収
		
'98.8	'98.8	'98.8
参加企業12社	市内スーパー等 114店舗	
12,300kg	67,755kg	11,950kg
回収地域は横浜駅西口・ 新横浜の2か所	3,834,000 缶	



ニカド電池リサイクルマーク

リサイクル
ワンポイント
講座

生活を便利してくれる電化製品の中には、乾電池を使っているものがたくさんありますが、最近は寿命が長く経済的なニカド電池が非常に増えました。携帯電話・コードレス電話・ビデオカメラ・ノートパソコンなどに使われているので、一度は目にしたことがあるかと思います。

ニカド電池は500回以上充電・放電することが可能ですが、やはり寿命があります。寿命がきたニカド電池をリサイクルすれば、ニッケルとカドミウムを取り出して再利用することができます。再生したニッケルは、大部分がステンレスの材料として有効に利用されており、カドミウムも新しいニカド電池の材料となります。カドミウム需要の70%は電池の材料ですから、回収して再利用することには大きな意味があります。

ニカド電池には黄色いリサイクルマークが表示され、他の電池と見分けやすくなっています。回収場所は、リサイクル協力店ステッカーのはってある販売店や、NTT・携帯電話会社のリサイクルボックス。ただし乾電池とは分別してください。

月刊 リサイクルデザイン
No.50 (Vol.5)

発行日 1998年10月15日

発行人 中野聡哉

編集人 宗村隆寛

● 発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220-0023横浜市区西平沼1丁目33番1号
東洋建物横浜ビル5階

TEL & FAX 045・316・5122

● スタッフ

山岡秀明・武松昭男

杉山宜利・竹澤留美

● ライター

島秀子・高橋由紀

イラスト いとうみき

編集・制作 よしのたかこ

● 印刷 オリジナルプランニング

編集後記

♥早いもので、リサイクルデザインも5年目に突入。気がつけば連続50号です。最初は毎月出すのってかなり大変なんじゃないかと思っていたのですが…やっぱりそうでした。作って印刷に出しては、次へ向かって頭を抱えてという状態が続きました。それがいつのころからか、頼りになる人たちが増えて「ホッ」としています。最近では、購読料を2年・3年分先払いして、ありがたいブレッシャーを感じさせてくださる読者も現れました。いつまで続くかわかりませんが、これからもどうぞよろしく願います。(Donald)

バックナンバー差し上げます。
送料のみご負担ください。

お申し込みはお電話で。

☎ 045・316・5122 担当竹澤

“リサイクルデザイン Club”
会員募集

月刊リサイクルデザインは、市内の一部の区役所・地区センターで無料配布していますが、会員として定期購読して支えてくださる方も募集しています。ご希望の方は、1年分1,000円(郵送料相当)を郵便局の振替用紙を使ってお振込みください。

口座番号 00210-3-64725

加入者 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お届けは毎月20~23日。特にご指定がなければ、最新号からお送りします。

また、イベントなどについての情報を、別途お知らせします。